評

柳 田 聖 山

著

## 初期 禅宗史書の研究

F 玉 初期禅宗史料の 成立に関する一考察

野 宗 浄

W.

以来、久しくそれに匹敵する研究を見な 史書に関する研究を発表し、この分野の に、歴史的功績を打ち立てたものといえ さしく前二書に次いでこの分野の学問史 かったのであるが、今回のこの著書はま 禅宗史の近代的学問書として開拓されて や鈴木大拙博士の禅思想史研究が、 の成果となった。宇井博士の禅宗史研究 めて十余年、 未開拓で至難な研究を緻密に着実におさ て「燈史の系譜」を発表以来、 著者は今更紹介するまでもなく、か その集大成が今日この大著 幾多の禅

され、 に高く認められるであろう。 れる同分野の学者達にとって直ちに利用 の書の学問的価値は、今後次々と研究さ され、今ここでは繰り返さない。 たことは、 的に厳密な科学性をもって批判研究され とづいて、それぞれ資料的価値を文献学 代法宝記をへて宝林伝に至るこの間のす して曹渓大師別伝から敦煌本六祖壇経歴 べての禅史書を尨大なる内外の資料にも 引用されることによって、 多くの書評に既に詳しく賞讃

> るほど、このようにあってほしいものと 的論文であっても、否、高度であればあ る方法であって、今後いくら高度な専門 りでなく、著者の理解度を示す責任のあ た特徴は、原文の確実な引用とともに、 即座に解明し得る。またこの著書の優れ や、仏語の禅書における初期の用例等が うことも考えられはするが、いずれにし 引用書を明記していないので言明できな していることである。これは親切なばか っぱなしではなく、必ず著者が現代和訳 その引用が従来の論文の如く原文の引き き方によって史書における相互の引用文 資料八篇は勿論のこと、索引の巧みな引 の高い著作である。校注の完備せる敦煌 ても禅宗史の研究者にとっては利用価値 はるかに早いのである。偶然の一致とい いが、発行年月から見ても柳田氏の方が 「達磨の研究」では参考文献、及び

著者はこのような問題に対してはどのよ されて、伝統への否定、批判と信仰に関 する諸問題がとやかくいわれているが、 さて最近、 「達磨の研究」などが発表

の燈史、神会の著作及び牛頭宗から古本

伝法宝紀、

楞伽師資記等の北宗関係

六祖壇経」に至る南宗関係の燈史、そ

宗史書の研究」の研究範囲内のものであ 料の決定としてはまさしくこの 博士の「達磨の研究」にしても、

一初期禅 根本資 たとえば、最近刊行された評判の関口

思われる。

ので要所を引用しておく。 らは余論においてはっきりと示している うな態度をとっているであろうか、これ

りは大きい。禅の学問的研究の仕事は、 誤り以上に、一義的に虚構と断じ去る誤 とは、よほど性質の異ったものである。 さがあるといえるのではなかろうか。」 かえって禅の歴史的学問的な研究の確か 接的な史実の断定を留保するところに、 伝わらぬ初期中国禅宗史については、直 **寧ろ、確実な同時代資料といえるものの** に史実を問うことであってはなるまい。 ることから始められるべきであり、直接 先ずそれらの資料の性質を正しく把握す それらをすべて一様に歴史的事実とする ての伝承であり、所謂歴史的事実の記録 その発生の初めから、すべてが要請とし 燈史と呼ばれる一群の禅の史伝は、

東洋文学Ⅱ

(兼)太田

東洋文学Ⅰ

## 昭和42年度開講科目表

学長 山田 無文

(兼)東 一郎 仏教学概論 仏教学科

専門教育課程

体育学(実技) 体育学(理論) 中国語(中級) 中国語(初級)

教授 医博 助教授 助教授 講師(兼)橋本 山田

陶天

講師 (兼)平野 柳田 石川

助教授 助教授 高崎 大石 守雄

教授 文博

荻須

西域仏教の研究 講師(兼)文博 講師(兼)文博 教授 教授 講師 助教授 講師(兼)藤原 文博 荻須

天台教学

·厳教学 土教学

ドイツ語(中級) ドイツ語(初級)

> 講師(兼)橋本 講師(兼)西村

践禅

実

一般教育課程

I

自然科学概論

講師(兼)浜崎 講師(兼)松本

正規

教授 教授 理博

理博

山ノ内年彦 山ノ内年彦

講師(兼)富田

義雄

日本禅宗史 中国禅宗史 日本仏教史 中国仏教史 印度仏教史 禅学思想史 仏教教理史 禅宗学概論

桑原

公徳

原始仏教

白弦

講師

維摩経の研究